

2021(令和3)年度 関西保育福祉専門学校
第2回教育課程編成委員会報告

本校の教育課程編成委員会設置要綱に基づき設置した教育課程編成委員会において、第2回委員会を開催いたしましたので、報告いたします。

1. 開催日時 2022(令和4)年3月3日(木) 15:00~17:00

2. 開催場所 関西保育福祉専門学校 校長室

3. 出席者

【委員】

名前	所属等	備考
北野 幸子	神戸大学 人間発達環境学研究科 准教授	出席
得平 正宏	社会福祉法人尼崎市社会福祉協議会 事務局長	出席
赤井 祐	社会福祉法人聖隷福祉会 宝塚せいれいの里 ケアサービス課 課長	出席
浅田 尚子	尼崎市立水堂保育所 所長	出席
北島 孝通	幼保連携型認定こども園庄内こどもの杜幼稚園 園長	欠席
濱田 洋行	社会福祉法人協同の苑 協同の苑六甲アイランド 施設長	欠席
黒岩由美子	社会福祉法人ふたば福祉会 塚口北ふたば保育園 園長	出席
細川 明子	関西保育福祉専門学校 教頭	出席
藤井 和子	同上 教務委員長	出席
藤田 千波	同上 保育科学科長	出席
尾崎 朋子	同上 介護福祉科学科長	出席
吉田しのぶ	同上 保育科教員	出席

【オブザーバー】

濱名 陽子	関西国際大学副学長 担当理事	出席
本田 あけみ	関西保育福祉専門学校校長 関西国際大学経営学部教授	出席
村田 健治	関西保育福祉専門学校 保育科教員	出席

4. 概要

(1) 校長あいさつ

(2) 理事あいさつ

(3) 報告事項

第1回教育課程編成委員会報告について

■ 学校から会議録に基づき、説明

(4) 協議

【2022(令和4)年度の教育課程について】

1) ICT教育の推進・充実に向けて

■ 学校から「ICT環境についてのアンケート調査結果について説明

□ 委員からのご意見

- 全国私立保育連盟が2020年度に2回、2021年度に1回、インターネット調査を実施し、保育現場でのICT活用状況について結果を公表している。WEBによる研修や園内会議などで活用例が増え効果が上がったという意見である。神戸市立の保育所では、9の拠点保育所にPCを設置し、市内27保育所でオンラインによる公開保育の研修を実施している。
- スマートフォンではキーボード活用がうまくいかない。今後、実習記録の電子化を図っていくことが進められるうえで、情報機器の操作は重要である。
- WHOでは、5歳以下の幼児に対して、PCなどの活用は1時間以内に制限するなどの提言をしているが、教員は活用を進めて行くべきだと考える。データの客観化、実習記録の電子化が進んでおり、エクセルやホームページ作成、ドキュメンテーション作成、双方向通信に対応できる技術は必要である。
- コロナ禍の中で、工夫された取り組みが行われていると評価する。介護の現場においても、記録の電子化などのコネクティッドやITを活用した介護方法も進んでいる。夜間巡視も、職員が巡視に回るのではなく、センサーで心拍や呼吸を把握するバイタル型やカメラ型などが取り入れられているので、学校の取り組む方向性は、間違っていない。
- PCが使えないと現場では厳しい。キーボード入力の方が速いが、クリック入力している職員もいる。今後は、音声入力も含めてユニバーサルに考えていきたい。
- iPadを導入したメリットは、授業資料を視覚化し届けることで、学生は素早く見ることができる点があげられる。逆に、学生は、資料がいつも送られてくるので、逆に安心してしまい、資料をあまり見ていない傾向がある。授業で定着を図る取り組みが必要である。
- ICTを進めて行くことで、ペーパーレス化や時間短縮化などのメリットもあるだろうが、リアルの良さ、対人でのコミュニケーションの良さは、何にも代えがたく大事にしてほしい。

2) 校内実習の充実に向けて

■ 学校から資料に基づき説明

□ 委員からのご意見

- 校内実習は難しい。実習中、落ち着いた子どもの姿は知っているが、新人職員として4月当初の子どもの姿に、「こんなに泣くんだ」とショックを受けることがある。リアル体験が必要である。
- 保育園から、保護者に対して、保育中の動画配信など情報提供することが増えている。個人情報保護の関係もあるが、校内実習に、資料として提供できる。
- 校内実習で、おんぶ紐の使い方や、抱っこの仕方、食べさせ方、スプーンの持ち方など具体的にロールプレイしておくといよい。
- 子どもに触れて、実体験を通して振り返ってみる現場実習は大事であるが、やむなく、校内実習をするのであれば、例えば、幼児をトイレに連れて行った時に、どのような言葉かけをするのか、実際の保育場面を想定してロールプレイをする機

会を持つことをして欲しい。

- 訪問介護実習で協力している。1日に2～3軒訪問に同行し、DVDを使った研修会にも参加してもらった。訪問介護は、個人宅へ訪問するので、そのお宅の雰囲気等多様な家庭の在り方の理解、利用者と話し合う時間を得る機会となっている。
- 実際に実習に行くと、子どもやクラスの関わりや担任の先生との関係性の中で、帰属意識が芽生えてくるが、校内実習ではそれがなかなか難しい。校内実習では、現場実習と比して、何が欠けるのか、何をしなければならないのかを考えていくことが必要である。学校で行うものであるから、実習記録の様式も現場実習とは異なるものを作成してもよいのではないか。また、校内だからこそ、バーチャルで海外も含めて、様々な園を見ることができし、比べることもできる。また、一日の保育の流れを中断したり、特化した取り組みも可能である。理想とするクラスづくりを場面ごとに視覚化することもできるのではないか。

3) 学生に関する評価を踏まえた次年度の取組に向けて

■ 学校から資料に基づき説明

□ 委員からのご意見

- 尼崎市では、3年目、4年目の若い保育士が30%以上占めている。また、数年後に定年を迎える保育士もたくさんおり、人材育成が課題となっている。若い保育士だから何もできないと見てしまうと、そのように見えるが、何かできるのではないかと見ていくよう心掛けている。上司の姿勢や関わり方が、若手のモチベーションに大きく影響していると考え、肯定的に受け入れていくようにしている。若い人が安心できる職場づくりが必要だと考えている。
- コミュニケーションスキルを向上させる取り組みが必要である。職場でも、スキル不足を経験で補っている人、経験不足をスキルで補っている人が見受けられる。相手に何を伝えたいのか、安心・安全を大事にしつつ、自分の思いを載せて表現していく力をつける取り組みが必要である。
- メンタルに関する評価もあるが、メンタルケアは、丁寧にかかわること、継続的に行うことが特に重要だと考える。

(5) 事務連絡

- ・委員任期は1年である為、2022年度についても委員委嘱をお願いすることとなるので、その際はよろしくお願いします。